

普段と違う浴衣姿が大好き

大学生 但馬未菜 20

夏祭りが大好きで、この時期は、毎年かならず浴衣を着て、花火を見に出かけている。

浴衣は、普段着る服装とは、がらりと雰囲気が変わり、より一層綺麗な姿に変身できると思う。

髪もまとめ上げ、髪飾りをつけると、いつもと違う自分になれた気持ちになる。気分はとても高まり、花火に出かけるのも、楽しみが増える。一緒に行く友達が、彼氏から浴衣姿を褒められるのも、とてもうれしい光景だ。

昨年、待ち合わせ場所にいると、通りがかりのおばあちゃんから「あなた(浴衣姿が)すごく似合ってる」と声を掛けられた。

浴衣は、華やかな図柄をはじめ、日本らしくとても美しいと思う。お気に入りの浴衣で行く祭りは、さらにウキウキ気分になる。

今年も浴衣を着て、さまざまな祭りやイベント会場で、感動と喜びを経験したい。

(大阪府寝屋川市)

風情ある古都の夏見守って

大学生 桑原怜夢 21

京都の夏といえば、祇園祭だろう。幼いころから家族とよく行ったのを覚えて

いる。

狭い道路には、金魚すくい、射的、りんごあめなど、たくさん屋台が並び、父の肩車の上から楽しんだ。

夜店など、ガチャガチャした祭りの雰囲気が好きで、山や鉾などは全然見ていなかった。縁起物で厄除けの粽の意味も知らなかった。

年齢を重ねるとともに見方も変わってきた。雰囲気を楽しむだけでなく、町家飾りなど、風情を楽しむのだと気づいた。

各町の鉾から流れてくるチンチンコンコンという囃子の音色、元気のよい町衆たちの姿、幼い子たちの「粽どうですか」という粽売りの声、すべてが祇園祭なんだと感じた。

そぞろ歩きをしながら、これが古都の夏と実感する。この伝統を壊さないように見守っていくのが、京都人の使命だと思う。

(京都府亀岡市)